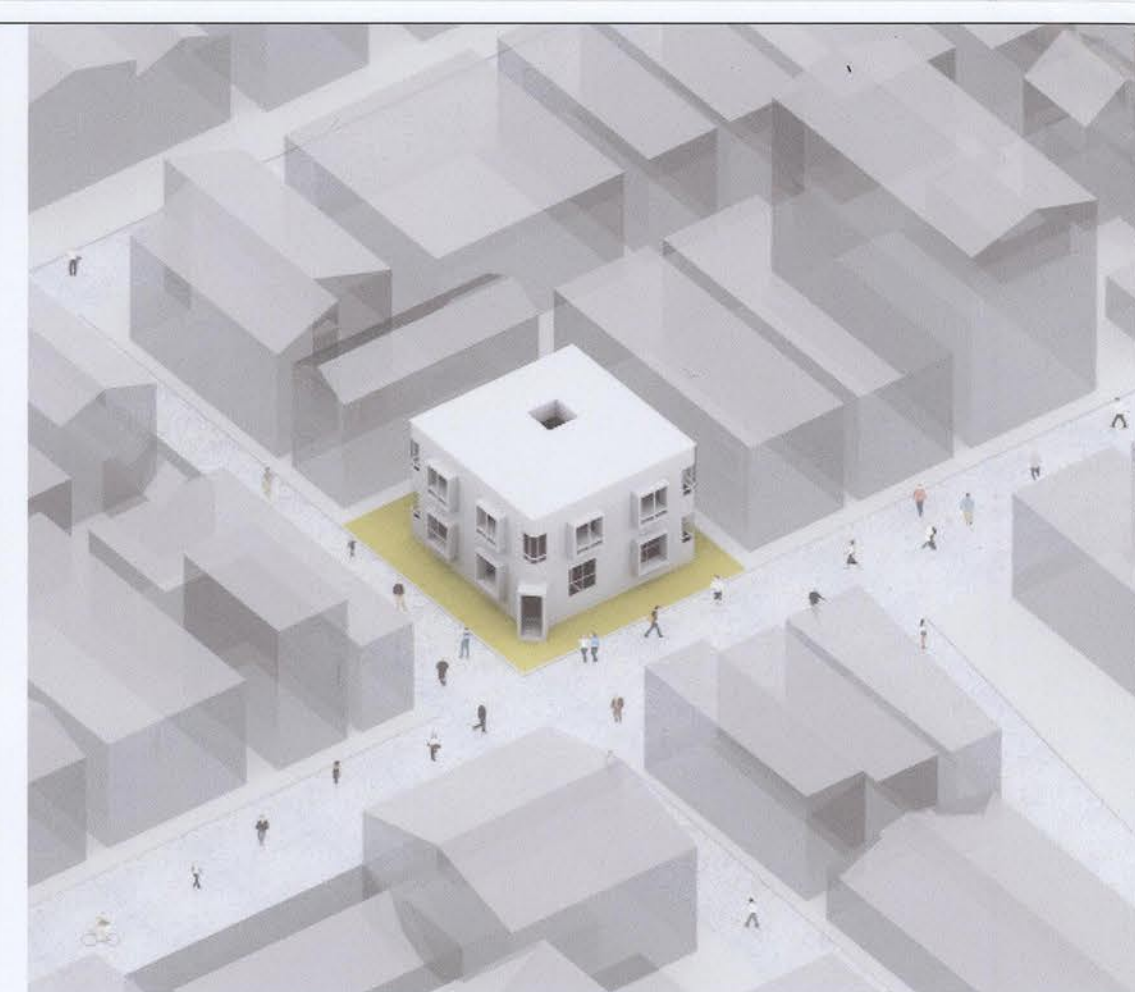


# ちゃぶ台の家

サザエさんの家でみるようにかつて、ちゃぶ台が家族の中心にありました。そこにいけば、必ず誰かがやってきて、世代に関係なく、気づくと家族みんなで囲んでいる風景がありました。しかし、生活習慣、時代の変化により、徐々に需要は減っていき、現代の家庭ではほとんどみられなくなりました。今回の提案はこのちゃぶ台の持つ、人が自然に集まるような場所を作り出せる魅力を利用し、現代生活の中でのちゃぶ台を再考することで、かつて、家族や世代をつないだように、家族だけではなく、町や地域、世代をつなぐ住宅を提案します。



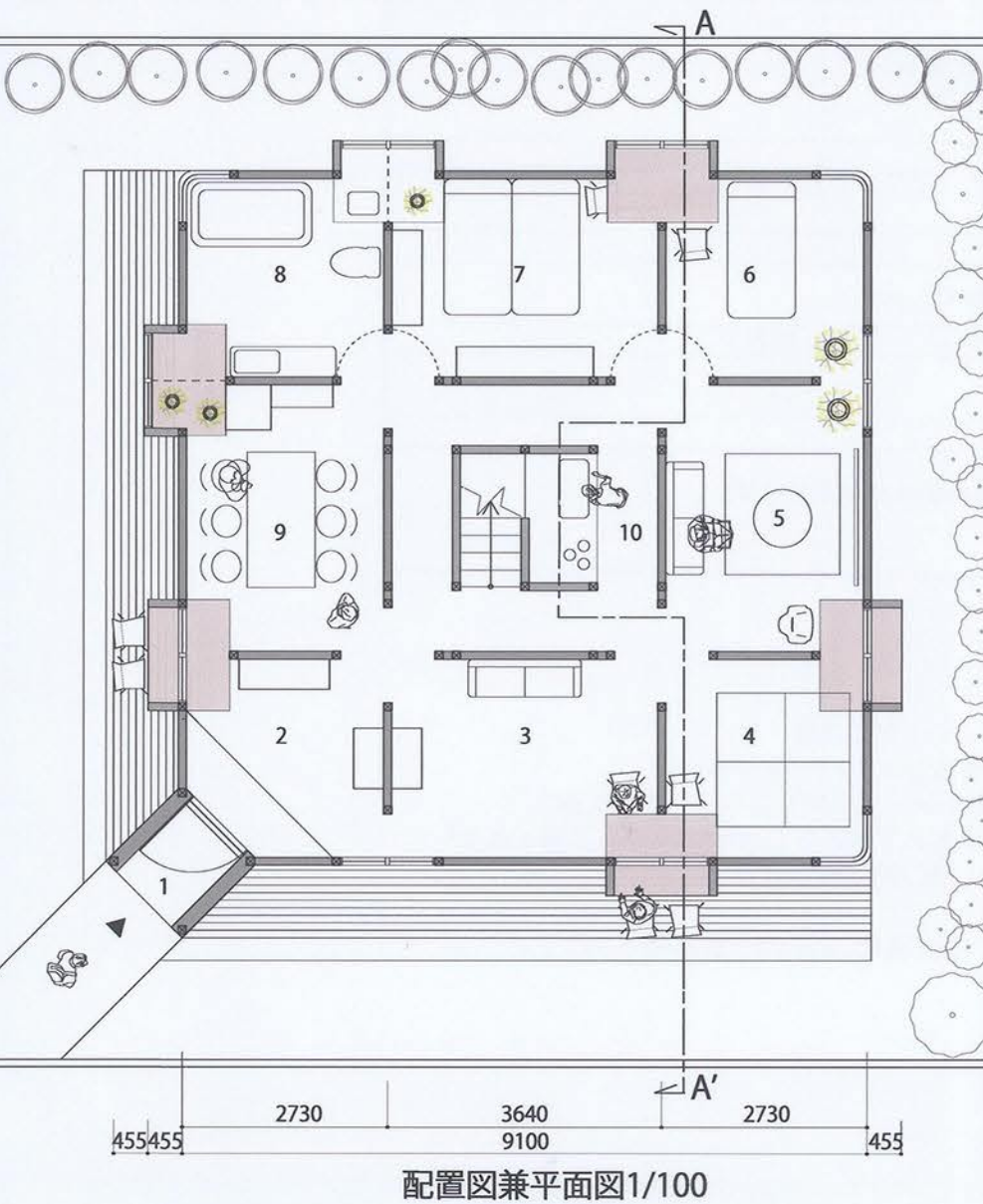
アクセメ



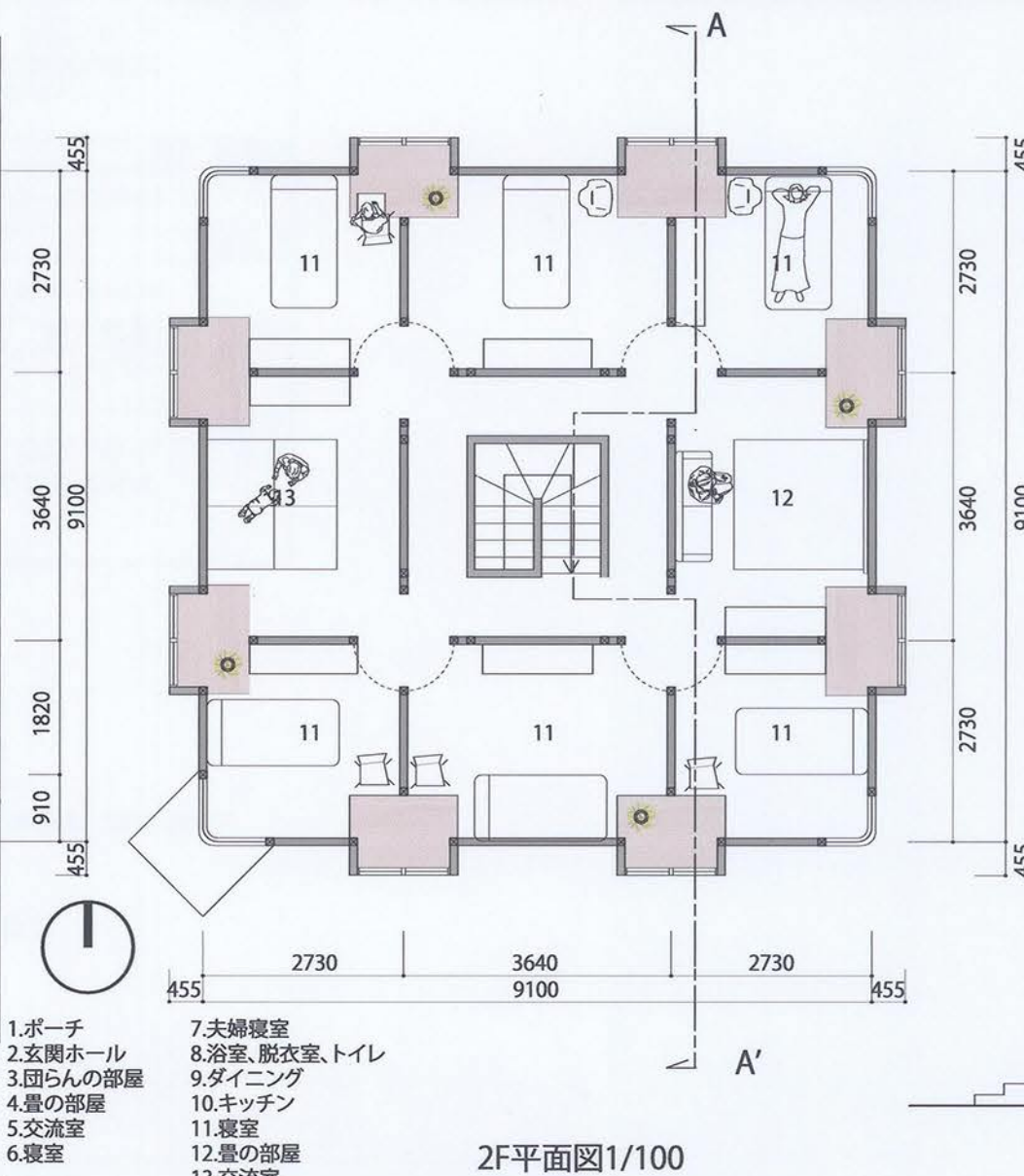
1F アクソメ



2F アクソメ



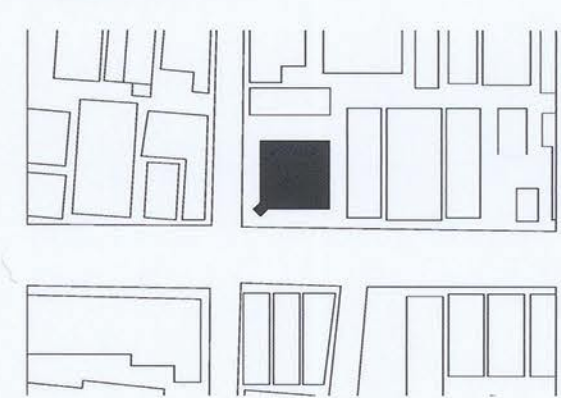
配置図兼平面図1/100



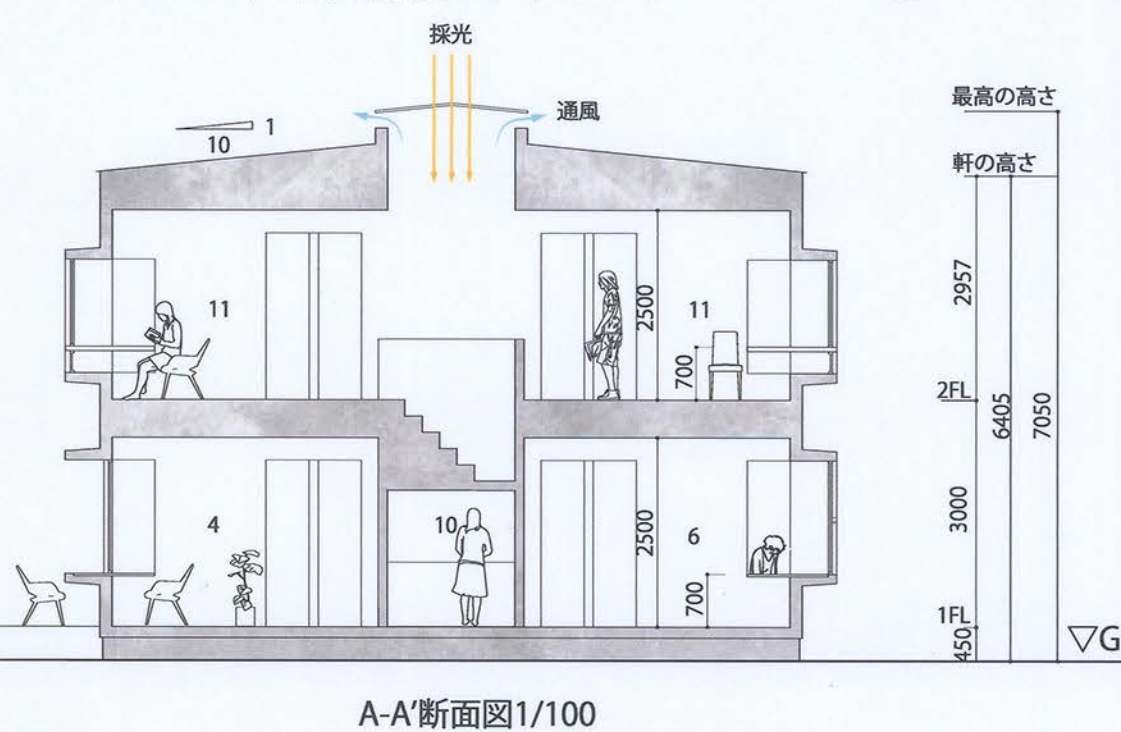
2F平面図1/100

- 1.ポーチ
- 2.玄関ホール
- 3.回廊の部屋
- 4.畳の部屋
- 5.交流室
- 6.寝室
- 7.夫婦寝室
- 8.浴室、脱衣室、トイレ
- 9.ダイニング
- 10.キッチン
- 11.寝室
- 12.畳の部屋
- 13.交流室

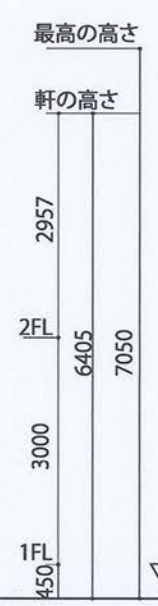
周辺図1/2500



敷地は駅から約1.5kmの場所に位置し、近隣には小学校、大学、学生街、商店街、住宅街があり、賑わいと静かさが同居する場所である。



A-A断面図1/100



**1. 背景**

ちゃぶ台が家族の中心にあり、ちゃぶ台は家族みんなのちゃぶ台であった。

小さく分割することで、最小限の人が集まる場所をつくる。

小さな単位で接する場所をつくることで家族一人一人のちゃぶ台になる。

**1. プロセス**

シンプルな田の字型平面

壁の交点を抜く

動線、採光、通風を確保する

**2. ちゃぶ台の実と虚**

中心部の壁の交点(虚のちゃぶ台)は人の動線になり、外周部周りの壁の交点(実のちゃぶ台)は隣室との共用のテーブルであり、窓である。テーブルに集まることでコミュニケーションが生まれる。また、個室には2つつ設けられているため、一つは収納のように物をおいたりすることで、隣室との距離を調節する。

**3. フレキシビリティ**

従来の田の字型プランだと部屋の四隅は個室として利用しにくい。交点を解放することで、個室としての利用も可能になる。床面積を最大化することで、多人数で住むことを想定できる。使わない部屋は回廊や趣味の場所、収納などに利用し、人が増えれば、その都度、家具を移動することで、個室を作り出せる。